

効果はご覧のとおりです。これまでの「体に良いので運動しませんか」程度の自治体の取り組みは、アクティブシニア世代には魅力に欠けるものでした。そこで、今回私が提言したのがコレです！



最新の科学技術や科学的根拠に基づく持続可能な新しい都市モデル



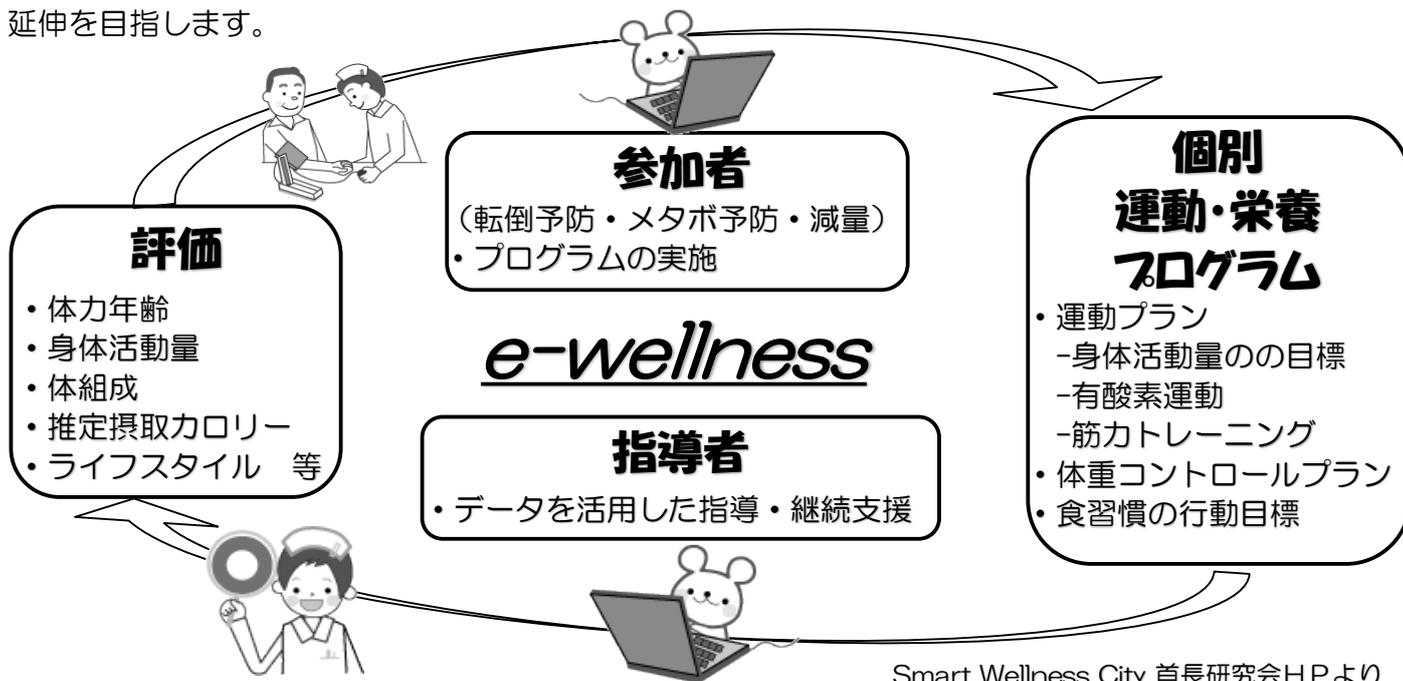
『Smart Wellness City』の構築

①、『Smart Wellness City』の構築を目指す首長研究会への参加を提言！

②、健康づくり事業は、科学的根拠に基づいた個別プログラム提供を！

超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため「健幸」を街づくりの基本に据えた新しい都市モデル「Smart WellnessCity」の構築を目指し、現在全国61区市町が加盟した首長研究会があり、こうした政策を連携し実行しています。

そして、筑波大学における研究成果を基盤に、多数の住民に対して個別指導と継続支援を可能とする個別運動・栄養プログラムを提供・管理するシステム「e-wellnessシステム」を導入し、健康寿命の延伸を目指します。



Smart Wellness City 首長研究会HPより

活躍の場では、就労支援施策として、技能習得的な研修会や就職活動のコツを身に着けるセミナーの実施等があることを確認しましたが、他の視点として、アクティブシニア層の持っている能力・経験・知識を発揮していただく環境づくりや地域ニーズとのマッチング機能が求められていると考え、今回は柏市の「生きがい就労」プロジェクトを例示した他、下記の姫路市の取り組みを提言をしました。

③、皆さんの知識・経験・技能を貴重な財産として登録し、その力を借りたい市民の皆さんと結びつける「生涯現役人材バンク」の導入を提言！

このような地域で活躍できる仕組みをつくることで、高齢者の社会参加と生きがいづくりを促進するとともに、市民の皆さんが、高齢者の持つ能力を活用できる機会を数多く提供することで世代間の交流を盛んにし、「生涯現役社会」の実現に貢献できるものと考えます。

これらの取り組みを本格化させることで、今後は高齢者がそのまま支えられる側になるのではなく、支える側や少なくとも支えられずに済む側であることが重要と訴えました。（詳細は議会報告会にて）

答弁では、①、②、③、とも研究・検討したいとのことでした。

